

# 都市再生整備計画 事後評価シート

## 金沢市金沢中央地区

令和3年3月

石川県金沢市

様式2 - 1 評価結果のまとめ

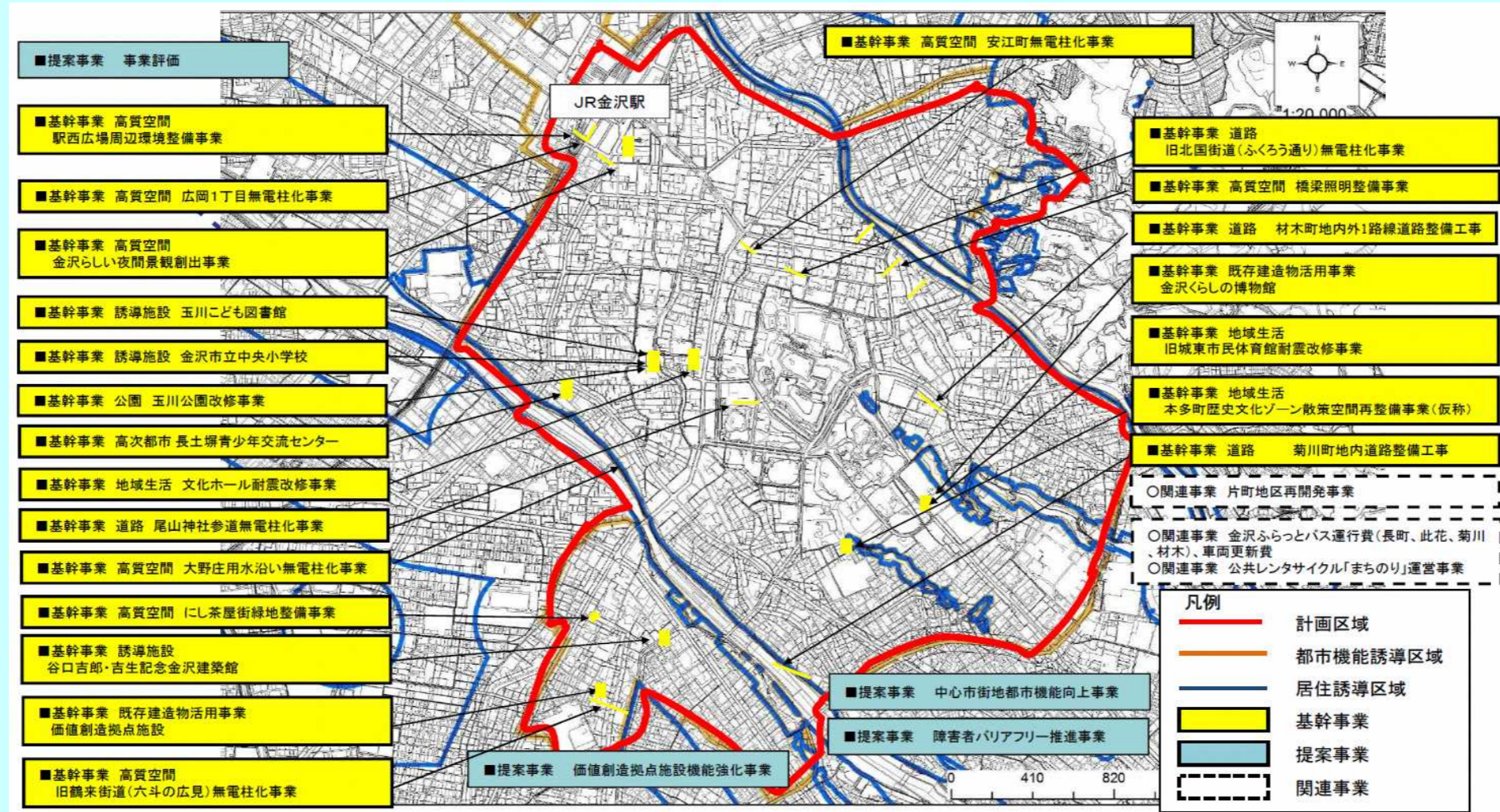
都道府県名	石川県		市町村名	金沢市		地区名	金沢中央地区		面積	860			
交付期間	平成26年度～令和2年度		事後評価実施時期	令和2年度		交付対象事業費	4,412.6百万円		国費率	0.5			
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	・菊川町地内道路整備工事・尾山神社参道無電柱化事業・旧北国街道(ふくろう通り)無電柱化事業・玉川公園改修事業・本多町歴史文化ゾーン散策空間整備事業・文化ホール耐震改修事業・大野庄用水沿い無電柱化事業・旧鶴来街道(六斗の広見)無電柱化事業・長土塀青少年交流センター・谷口吉郎・吉生記念金沢建築館・金沢くらしの博物館										
		提案事業	障害者バリアフリー推進事業・事業評価・中心市街地都市機能向上事業										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名		削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		提案事業											
	新たに追加した事業	基幹事業	・材木町地内外1路線道路整備工事・安江町無電柱化事業・広岡1丁目地内無電柱化事業・金沢らしい夜間景観創出事業・駅西広場歩行環境整備事業・にし茶屋街緑地整備事業・中央小学校・玉川こども図書館・価値創造拠点施設整備事業		まちなかを整備することによって、人をまちなかに呼び込み交流人口の増加、各種指標の目標を達成する。				「主要商業地の歩行者通行量」「45歳未満の人口の年会社会動態」「45歳未満の人口の年会社会動態」「外国人入り込み客数」				
		提案事業	価値創造拠点施設機能強化事業										
交付期間の変更	当初	平成26年～平成30年		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
	変更	平成26年～令和2年											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	45歳未満人口の年間社会動態	人/年	平均94人	平成24～27年	平均156	平成29～令和2年	-	平均 23	×	あり なし	平成30年以降、市内全体の人口も減少に転じていることもあり、目標には達していないが、無電柱化や緑の交流空間・散策路の整備など魅力あるまちづくりの推進することで居住環境の向上を図っている。	令和3年度
	指標2	主要商業地の歩行者通行量	人/日	平均102,000	平成24～27年	平均115,000	平成29～令和2年	-	平均102,532		あり なし	目標値には達していないが、金沢駅周辺の環境整備や無電柱化等による修景、誘導施設の整備や第1期～第3期の本事業の整備効果などの関連事業が相互に作用し、微増傾向にある。	令和3年度
	指標3	金澤町家の再生活用件数	件/年	平均8	平成24～27年	平均12	平成29～令和2年	-	平均12.75		あり なし	以前から歴史的環境を保全し、豊かな自然環境と調和して都市をめざしており、本事業においても本多町歴史文化ゾーン散策空間再整備事業、旧鶴来街道無電柱化など進めたことにより、金澤町家の再生が図られている。	令和3年度
指標4	外国人入り込み客数	人/年	256,000	平成27年	400,000	令和2年	-	613,000		あり なし	平成29年に目標である40万人を上回り、以降増加傾向にある。直近3年間の平均においても目標値を超えている。無電柱化事業や金沢らしい夜間景観の創出など金沢の個性や魅力、伝統・文化を国内外に広く発信することで交流人口の増加を促進された。	令和3年度	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1	設定なし											
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													
4) 定性的な効果発現状況													

5) 実施過程の評価	実施内容	実施状況			今後の対応方針等
		都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	
モニタリングの実施状況	金沢市統計データによるモニタリング	都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	今後も指標の状況を各年度毎に把握していく
モニタリングの実施状況	中心市街地都市機能向上事業の具現化にかかる社会実験の実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	交通量調査結果及びアンケート結果を、当該地区における今後のまちづくり施策に活かす。
モニタリングの実施状況	玉川こども図書館交通渋滞調査の実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	調査結果に基づく整備方針(駐車場・車両動線関係)について引き続き関係機関と協議する。
住民参加プロセス	ともに考えよう まちづくりミーティングの開催	都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	新型コロナウイルスの影響で、住民が集まる場を設定するのが困難となっているが、別の方法について検討中
住民参加プロセス	中心市街地都市機能向上事業にかかる地元ワークショップの開催	都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	施策の実現に向けて、引き続き検討を進める
住民参加プロセス	長土堀青少年交流センター整備検討懇話会	都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	特になし
住民参加プロセス	中央小学校建設連絡会の開催	都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	事業の進捗や整備に係る諸課題の状況に応じて適宜開催
持続的なまちづくり体制の構築	中心市街地都市機能向上計画の策定	都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	計画に基づき、中心市街地まちなみ形成事業として、モデルゾーンにおいて、都市機能向上施策の事業化に向けた検討を行う。
持続的なまちづくり体制の構築	夜間景観創出パートナー制度の創設	都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	引き続き、本制度を活用しながら、夜間景観アクションプログラムに基づき夜間景観の魅力向上を図る。
持続的なまちづくり体制の構築	まちづくり協定の締結	都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	引き続き、本制度を活用し、市民主体のまちづくりを推進する。

## 様式2 - 2 地区の概要

### 金沢市金沢中央地区(石川県金沢市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
まちなかの定住と交流を促進し、魅力あるまちづくりを推進 目標1:誰もが暮らしやすい中心市街地 目標2:にぎわいと交流が生まれる中心市街地 目標3:過度に自動車に依存しない中心市街地	45歳未満人口の年間社会動態	単位:人/年	平均94人	平成24~27年	平均156	平成29~令和2年	平均 23	平成29~31年
	主要商業地の歩行者通行量	単位:人/日	平均102,000	平成24~27年	平均115,000	平成29~令和2年	平均102,532	平成29~令和元年
	金澤町家の再生活用件数	単位:件/年	平均8	平成24~27年	平均12	平成29~令和2年	平均12.75	平成29~令和元年
	外国人入り込み客数	単位:人/年	256,000	平成27年	400,000	令和2年	613,000	R元
			-	-	-	-		



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年以降、若い世代の社会動態は低調であったが、令和元年度には住宅支援制度の効果もあり大幅な増となった。</li> <li>北陸新幹線開業にあわせ、駅西広場の歩行環境整備や無電柱化事業により交通結節点やまちなみの修景が図られ、来街者をもてなす環境が充実した。また、谷口吉郎・吉生記念金沢建築館など本市の魅力発信につながる施設や長土堀青少年交流センターなどの交流施設の建設され、駅周辺だけでなくまちなか全体に賑わいの創出が図られた。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少・超高齢化社会においても、持続可能なまちづくりのため、まちなか区域の人口の維持を図る。</li> <li>アフターコロナ対策として、引き続きインバウンド対策の強化や歴史と文化を生かした魅力あるまちづくりに努めていく。</li> <li>都市機能集約の観点から、郊外化の抑制とまちなかへの誘導を図り、安全・安心で住みよいまちづくりに努める。</li> <li>次世代型移動サービスの活用を見据え、便利で移動しやすいまちづくりに努める。</li> <li>点在して整備してきた施設を、連続性が生まれるように整備していく。</li> <li>本市の持つ歴史、文化、地場産業を基に、産学官が連携して新産業の創出に努める。</li> </ul>

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3 - モニタリングの実施状況
- 添付様式3 - 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4 - 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5 - まちの課題の変化
- 添付様式5 - 今後のまちづくり方策
- 添付様式5 - 参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5 - 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6 - 参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標					
B. 目標を定量化する指標			中心市街地の観光施設の利用者数	外国人入り込み客数	北陸新幹線開業を機に、日本国内だけではなく外国人観光客を呼び込むための施策を推進していくため
C. 目標値					
D. その他( )					

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 <sup>1</sup> (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	菊川町地内道路整備工事	90.0	L=1000m	89.2	L=1000m	全体事業費の減	事業内容に変更ないため、指標への影響なし		
道路	尾山神社参道無電柱化事業	185.0	L=350m	246.3	L=350m	全体事業費の減	事業内容に変更ないため、指標への影響なし		
道路	旧北国街道(ふくろう通り)無電柱化事業	234.0	L=370m	253.7	L=300m	個別補助へ移管	無電柱化個別補助へ移管、事業継続のため、指標への影響はなし		
道路	材木町地内外1路線道路整備工事			3.6	L=150m	事業の追加	指標については主に「45歳未満の人口の年会社会動態」に影響を与えるものである		
公園	玉川公園改修事業	110.0	9,699㎡	110.0	9,699㎡				
地域生活基盤施設	本多町歴史文化ゾーン散策空間整備事業	414.3	3,256㎡	408.8	3,256㎡	全体事業費の減	事業内容に変更ないため、指標への影響なし		
地域生活基盤施設	旧城東市民体育館耐震改修事業			80.0	955㎡	事業の追加	指標については「45歳未満の人口の年会社会動態」に影響を与えるものである		
地域生活基盤施設	文化ホール耐震改修事業	192.2	10,032㎡	191.5	10,032㎡	全体事業費の減	事業内容に変更ないため、指標への影響なし		
高質空間形成施設	大野庄用水沿い無電柱化事業	125.0	L=70m	136.0	L=70m	全体事業費の増	事業内容に変更ないため、指標への影響なし		
高質空間形成施設	旧鶴来街道(六斗の広見)無電柱化事業	430.0	L=350m	71.6	L=250m	個別補助へ移管	無電柱化個別補助へ移管、事業継続のため、指標への影響はなし		
高質空間形成施設	安江町無電柱化事業			125.3	L=150m	事業の追加	指標については主に「外国人入り込み客数」及び「主要商業地の歩行者通行量」に影響を与えるものである		
高質空間形成施設	広岡1丁目無電柱化事業			169.8	L=330m	事業の追加	指標については主に「外国人入り込み客数」及び「主要商業地の歩行者通行量」に影響を与えるものである		
高質空間形成施設	駅西広場周辺環境整備事業			749.3	8,400㎡	事業の追加	指標については主に「外国人入り込み客数」及び「主要商業地の歩行者通行量」に影響を与えるものである		
高質空間形成施設	橋梁照明整備事業	65.0	4橋	61.2	4橋	全体事業費の減	指標については主に「外国人入り込み客数」及び「主要商業地の歩行者通行量」に影響を与えるものである		
高質空間形成施設	金沢らしい夜間景観創出事業			145.8	8か所	事業の追加	指標については主に「外国人入り込み客数」及び「金澤町家の再生活用件数」に影響を与えるものである		
高質空間形成施設	にし茶屋街緑地整備事業			44.7	183.41㎡	事業の追加	指標については「外国人入り込み客数」及び「主要商業地の歩行者通行量」、「金澤町家の再生活用件数」に影響を与えるものである		
高次都市施設	長土塀青少年交流センター	1036.5	3,500㎡	1,009.5	2,580㎡	全体事業費の減	指標については「45歳未満の人口の年会社会動態」に影響を与えるものであるが、事業内容に変更がないため、指標への影響なし		
誘導施設	谷口吉郎・吉生記念金沢建築館	2099.0	2,400㎡	2,060.2	2,400㎡	全体事業費の減	指標については主に「外国人入り込み客数」及び「主要商業地の歩行者通行量」に影響を与えるものであるが、事業内容に変更がないため、指標への影響なし		
誘導施設	金沢市立中央小学校			770.4	2,400㎡		指標については、「45歳未満人口の年間社会動態」に影響を与えるものであるが、開館時期が令和3年8月を予定しており、現計画の目標値は変更しないが、次期計画にて目標値を織り込む予定である。		
誘導施設	玉川こども図書館			956.2	8,000㎡		指標については、「45歳未満人口の年間社会動態」に影響を与えるものであるが、開館時期が令和3年8月を予定しており、現計画の目標値は変更しないが、次期計画にて目標値を織り込む予定である。		
既存建物活用事業	金沢くらしの博物館	241.2	2,000㎡	213.5	2,000㎡	全体事業費の減	指標については主に「外国人入り込み客数」及び「金澤町家の再生活用件数」に影響を与えるものであるが、事業内容に変更がないため、指標への影響なし		
既存建物活用事業	価値創造拠点施設整備事業			716.6	3,700㎡	事業の追加	指標については、「45歳未満人口の年間社会動態」に影響を与えるものであるが、開館時期が令和3年8月を予定しており、現計画の目標値は変更しないが、次期計画にて目標値を織り込む予定である。		

1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 <sup>1</sup> (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

<sup>1</sup>: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと



提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	価値創造拠点施設機能強化事業			200	エレベーター棟整備	事業の追加	事業内容に変更がないため、指標への影響なし		
	障害者バリアフリー推進事業	2	音声案内装置設置	2	音声案内装置設置	変更なし			
事業活用調査	事後評価分析業務	2	都市再生整備計画の 中間事後評価	2	都市再生整備計画の 中間事後評価	変更なし			
まちづくり 活動推進事業	中心市街地都市機能向上事業	8	柿木畠・広坂・袋町地 区のまちづくりにつ いて	8	柿木畠・広坂・袋町地 区のまちづくりにつ いて	変更なし			

1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画		
金沢ふらっとバス運行事業		・菊川ルート、此花ルート、材木ルート、 長町ルート	467.4	638.0	H26 ~ H30	H26 ~ R2	継続中	
公共レンタサイクル「まちなり」運営事業		金沢駅周辺、武蔵周辺、片町・香林坊周辺 ほか	110.0	119.0	H26 ~ H30	H26 ~ R2	継続中	
片町地区再開発事業		片町2丁目	5,600.0	5,700.0	H23 ~ H28	H25 ~ H28	完了	

添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考) 1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度 2		1年以内の達成見込みの有無		
				基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし		
指標1	45歳未満人口の年間社会動態	人/年	住民基本台帳より、まちなか区域内における45歳未満人口の総転入者数と総転出者数との差の4年間平均値を算出する		平均94人	平成24~27年	平均156	平成29~令和2年	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定見込み	23	事後評価	×		
指標2	主要商業地の歩行者通行量	人/日	片町、香林坊、豎町、近江町、武蔵、横安江町、金沢駅の7商業地において歩行者通行量を計測する。		平均102,000人	平成24~27年	平均115,000	平成29~令和2年	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定見込み	102,532	事後評価			
指標3	金澤町家の再生活用件数	件/年	金澤町家の良好な保全にあたり、補助制度を活用した件数		平均8	平成24~27年	平均12	平成29~令和2年	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定見込み	12.75	事後評価	○		
指標4	外国人入り込み客数	人/年	外国人宿泊客数		256,000	H27	400,000	令和2年	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定見込み	613,000	事後評価	○		

指標	目標達成度 × の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	目標値に達成しなかった原因として、市内全体の人口も減少に転じていることもあるが、最大の原因として若年層の都市圏への流出が考えられる。しかしR1年は戸建住宅・共同住宅等への支援制度の充実により131人増加しており、その結果 23人であることから引き続き居住環境の向上を図る必要がある。	
指標2	目標値には達しなかったが、従前値が新幹線開業効果を反映したものであり、金沢駅周辺の環境整事業などは反映されていないものの微増傾向にあることから一定の効果はあったと考える。	調査日の天候に左右されることが多い
指標3	本市はこれまでも「保全と開発の調和」を基本としたまちづくりを進めてきており、無電柱化や散策路整備など、快適な歩行環境の創出を図ることで金澤町家など本市固有の歴史資産の保全・活用の推進にも寄与している。	
指標4	平成29年に目標である40万人を上回り、以降増加傾向にある。直近3年間の平均においても目標値を超えている。無電柱化事業や金沢らしい夜間景観の創出など金沢の個性や魅力、伝統・文化を国内外に広く発信することで交流人口の増加を促進された。	

1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。  
 2 目標達成度の記入方法  
 : 評価値が目標値を上回った場合  
 : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合  
 × : 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考) 1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	モニタリング	確定	見込み		
その他の 数値指標1	設定なし						モニタリング	-	-		
								確定			
その他の 数値指標2							モニタリング	-	-		
								確定			
その他の 数値指標3							モニタリング	-	-		
								確定			
								見込み			

1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

無電柱化事業や緑の交流空間・歴史文化ゾーンの散策空間の整備などにより、市民の居住環境の向上だけでなく、市民が誇れる景観の形成がなされている。  
谷口吉郎・吉生記念金沢建築館の開業により、テレビなどを始めとしたメディアより、金沢市内外へ広く発信されており、PR機会となっている。

(2) 実施過程の評価

添付様式3 - モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
中間事業評価の実施	予定どおり実施した	【実施頻度】中間年度に1回 【実施時期】平成29年3月 【実施結果】各指標について、交付期間中の変化を確認	今後も指標の状況を各年度毎に把握してい く
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		
中心市街地都市機能向上事業の 具現化にかかる社会実験の実施	予定どおり実施した	柿木畠ゾーンにおいて道路の一部区間を歩行者専用とし、人の流れや周辺道 路への影響などを把握するための社会実験を実施。 日時:令和2年10月10日(土)・11日(日)10時~21時 内容:交通量調査(歩行者、車両)、アンケート調査の実施	交通量調査結果及びアンケート結果を、当 該地区における今後のまちづくり施策に活か す。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		
玉川こども図書館交通渋滞調査の実施	予定どおり実施した	中央地区教育施設再整備(中央小学校・玉川こども図書館等)基本計 画策定業務の一環として、都市計画道路橋場若宮線において玉川こども 図書館の交通渋滞調査を実施。 日時:平成30年7月18日(水)9:45~17:30・7月21日(土)9:15~17:30 内容:駐車場・駐輪場の利用率及び周辺の渋滞発生状況の調査 引き続き実施する基本・実施設計での車両動線や駐車台数 検討に活用	調査結果に基づく整備方針(駐車場・車両動 線関係)について引き続き関係機関と協議す る。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

添付様式3 - 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		体制構築に向けた取組内容	まちづくり組織名:組織の概要	
ともに考えよう まちづくりミーティングの開催	予定どおり実施した	令和元年度は4回開催(8月2回、9月、10月)		新型コロナ感染症の影響で、住民が集まる場を設定するのが困難となっているが、別の方法について検討中
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			
中心市街地都市機能向上事業にかかる地元ワークショップの開催	予定どおり実施した	中心市街地の活性化につながるまちづくりの推進に向け、コミュニティー単位にゾーニングして地元ワークショップを開催。 ・柿木畠ゾーン(H28~) ・広坂ゾーン(H28~) ・袋町ゾーン(H28~)		施策の実現に向けて、引き続き検討を進める
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			
長土堀青少年交流センター整備検討懇話会	予定どおり実施した	目的:施設の規模や機能等の必要な事項を検討し、整備基本計画を策定 開催:平成26年度 全3回(12月、1月、2月) 委員:有識者、関係団体の長、地元町会連合会会長		特になし
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			
中央小学校建設連絡会の開催	予定どおり実施した	令和元年度・・・2回開催(8月、11月) 令和2年度・・・1回開催(6月) 令和3年2月16日時点 構成メンバー・・・町会連合会長、公民館長、育友会役員等 協議事項・・・整備事業説明、諸課題の検討等		事業の進捗や整備に係る諸課題の状況に応じて適宜開催
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			

添付様式3 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		体制構築に向けた取組内容	まちづくり組織名:組織の概要	
中心市街地都市機能向上計画の策定	予定どおり実施した	商業機能・観光交流機能・業務機能の充実、居住環境改善、まちの回遊性向上など、都市機能の向上を図る上で、具体性かつ実効性のある計画を策定	中心市街地都市機能向上検討委員会 ・6回開催(H26:3回、H27:3回)	計画に基づき、中心市街地まちなみ形成事業として、モデルゾーンにおいて、都市機能向上施策の事業化に向けた検討を行う。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			
夜間景観創出パートナー制度の創設	予定どおり実施した	市民との協働による魅力的な夜間景観の創出に向け、夜間景観創出パートナー登録制度を創設。電気料の負担や土地の無償提供等に係る協定を締結し、ライトアップを行うことにより夜間景観の魅力向上を図った。	(R01)株式会社 北國銀行、宗教法人 尾崎神社、宗教法人 尾山神社	引き続き、本制度を活用しながら、夜間景観アクションプログラムに基づき夜間景観の魅力向上を図る。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			
まちづくり協定の締結	予定どおり実施した	市民が主体となり、地区ごとに住みよいまちづくりを推進するため、まちづくり計画を策定し、市長と協定を締結する。 H30年度 新規 6地区 R元年度 新規 8地区 R2年度 新規 1地区	町会や複数町会によるまちづくり協議会、商店街振興組合など	引き続き、本制度を活用し、市民主体のまちづくりを推進する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織 (都市再生整備計画事後評価検討チーム)	都市再生整備計画掲載事業担当課の職員	令和2年8月～11月	都市計画課

添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標3		指標4	
指標名		金澤町家の再生活用件数		外国人入り込み客数	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路:菊川町地内道路整備工事 他1路線	○	本市はこれまでも「保全と開発の調和」を基本としたまちづくりを進めてきており、無電柱化や散策路整備など、快適な歩行環境の創出を図ることで金澤町家など本市固有の歴史資産の保全・活用の推進にも寄与している。	○	基準とした平成27年度以降順調に増加しており、平成29年には目標である40万人を上回り以降も増加傾向にある。直近3年間の平均においても目標値を超えている。藩政期時代の特徴を色濃く残す都市構造を保全しつつ、良好な歩行環境の整備等を行うことで、外国人観光客の集客にもつながっている。
	道路:尾山神社参道無電柱化事業 他1路線	-			
	地域生活基盤施設:本多町歴史文化ゾーン散策空間整備事業	-			
	地域生活基盤施設:旧城東市民体育館耐震改修事業 他1事業	-			
	高質空間形成施設:大野庄用水沿い無電柱化事業 他4事業	○			
	高質空間形成施設:駅西広場周辺環境整備事業 他3事業	○			
	高次都市施設:長土塀青少年交流センター	-			
	誘導施設(教育文化施設):谷口吉郎・吉生記念金沢建築館 他3事業	○			
既存建造物活用事業:金沢くらしの博物館 他1事業	○				
提案事業	地域創造支援事業:価値創造拠点施設機能強化事業	-			
	地域創造支援事業:障害者バリアフリー推進事業	-			
	事業活用調査:事業評価	-			
	まちづくり活動推進事業:中心市街地都市機能向上事業	○			
関連事業	金沢ふらっとバス運行事業	-			
	公共レンタサイクル「まちなり」運営事業	-			
	片町地区再開発事業	-			

指標改善への貢献度

- ・事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ・事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- ・事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	総合所見	総合所見
	市民が暮らしやすい生活環境を整備するとともに、歴史的建造物の価値づけや活用を推進し、本市固有の歴史資産に磨きをかけることで、市民をはじめ観光客にも愛されるまちを目指し交流人口の拡大につなげる。	これまでの金沢の歴史・文化の魅力に加え、金沢建築館や夜間景観など新たな魅力を発信することでリピーターの確保につなげる。

添付様式4 - 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2		
指標名		45歳未満の人口の年間社会動態			主要商業地の歩行者通行量		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路:菊川町地内道路整備工事 他1路線		目標値に達成しなかった原因として、市内全体の人口も減少に転じていることもあるが、最大の原因として若年層の都市圏への流出が考えられる。しかしR1年は戸建住宅・共同住宅等への支援制度の充実により131人増加しており、その結果 23人であることから引き続き居住環境の向上を図る必要がある。		目標値には達しなかったが、従前値が新幹線開業効果を反映したものであり、金沢駅周辺の環境整事業などは反映されていないものの微増傾向にあることから一定の効果はあったと考える。		
	道路:尾山神社参道無電柱化事業 他1路線						
	地域生活基盤施設:本多町歴史文化ゾーン散策空間整備事業						
	地域生活基盤施設:旧城東市民体育館耐震改修事業 他1事業						
	高質空間形成施設:大野庄用水沿い無電柱化事業 他4事業						
	高質空間形成施設:駅西広場周辺環境整備事業 他3事業						
	高次都市施設:長土堀青少年交流センター						
	誘導施設(教育文化施設):谷口吉郎・吉生記念金沢建築館 他3事業	×		×			
既存建造物活用事業:金沢くらしの博物館 他1事業							
提案事業	地域創造支援事業:価値創造拠点施設機能強化事業						
	地域創造支援事業:障害者バリアフリー推進事業						
	事業活用調査:事業評価	-					
	まちづくり活動推進事業:中心市街地都市機能向上事業						
関連事業	金沢ふらっとバス運行事業						
	公共レンタサイクル「まちのり」運営事業						
	片町地区再開発事業						

目標未達成への影響度  
 ××:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。  
 ×:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。  
 -:数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。  
 -:事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

要因の分類  
 分類 : 内的な要因で、予見が可能な要因。  
 分類 : 外的な要因で、予見が可能な要因。  
 分類 : 外的な要因で、予見が不可能な要因。  
 分類 : 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針  
(記入は必須)

まちなか居住に向けた各種支援制度の活用や、空き家の活用・流通促進、まちなか未利用地の活用促進などさらなる居住誘導を図るとともに、公共交通の利便性の向上など金沢市集約都市形成計画に即した施策を推進する。

指標の調査時期が10月の3連休中2日間行い平均を取っているが、天候で大きく左右されるところがある。また、H30年は台風により調査日を変更したことから、数値が大きく減少しており、今後数値の捉え方について検討が必要である。

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織 (都市再生整備計画事後評価検討チーム)	都市再生整備計画掲載事業担当課の職員	令和2年8月～11月	都市計画課

添付様式5 - まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
まちなか人口の確保	平成28年以降、若い世代の社会動態は低調であったが、令和元年度には住宅支援制度の効果もあり大幅な増となった。	コンパクトシティの実現に向けて、まちなかにおける住環境の向上を図り、引き続き若い世代のまちなか定住を進めていく必要がある。	・集約都市形成計画で掲げる、持続的な成長を支える「軸線強化型都市構造」への転換を図っていく必要がある。 ・産学官が連携による新産業の創出など、世界に発信できる新たな魅力の創出に努めていく必要がある
まちなかの活力維持・賑わい創出	北陸新幹線開業にあわせ、駅西広場の歩行環境整備や無電柱化事業により交通結節点やまちなみの修景が図られ、来街者をもてなす環境が充実した。また、谷口吉郎・吉生記念金沢建築館など本市の魅力発信につながる施設や長土堀青少年交流センターなどの交流施設が建設され、駅周辺だけでなくまちなか全体に賑わいの創出が図られた。	公共交通の充実と歩行環境の整備を進めていく必要がある。  新型コロナウイルスの影響を受けた観光需要および商店街の賑わい回復	



添付様式5 - 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
<p>A欄 効果を持続させるため に行う方策</p>	<p>まちなか定住の促進</p>	<p>人口減少・超高齢化社会においても、持続可能なまちづくりのため、まちなか区域の人口の維持を図る。</p>	<p>・まちなか定住促進事業 ・地域子育て支援拠点事業</p>
	<p>観光客(外国人の入り込み客等)数の回復・増加</p>	<p>アフターコロナ対策として、引き続きインバウンド対策の強化や歴史と文化を生かした魅力あるまちづくりに努めていく。</p>	<p>・「木の文化都市・金沢」の創出など新たな魅力の発掘</p>

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
<p>B欄 改善策</p> <p>・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策</p>	<p>集約都市形成計画の推進</p>	<p>都市機能集約の観点から、郊外化の抑制とまちなかへの誘導を図り、安全・安心で住みよいまちづくりに努める。</p>	<p>まちなか定住促進、道路整備、公園広場整備、安全施設整備、集客施設整備、まちなみ修景</p>
	<p>まちなかの円滑な移動の推進</p>	<p>次世代型移動サービスの活用を見据え、便利で移動しやすいまちづくりに努める。</p>	<p>マイカー利用の抑制、新交通システムの導入検討、広域的な交通網の連携</p>
	<p>連続性ある整備</p>	<p>点在して整備してきた施設を、連続性が生まれるように整備していく。</p>	<p>道路整備、案内施設の整備、安全施設の整備、防雪施設の整備</p>
	<p>新たな魅力の創出</p>	<p>本市の持つ歴史、文化、地場産業を基に、産学官が連携して新産業の創出に努める。</p>	<p>価値創造拠点等における起業家の育成 独創的で創造性豊かな子供を育成するプロジェクトの実施</p>

添付様式5 - 参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5 - 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	
			年度	年度	年度	年度					
指標1	45歳未満人口の年間社会動態	人/年	平均94	H24~27	平均156	H29~R2	確定	23	×	あり	×
							見込み			なし	
指標2	主要商業地の歩行者通行量	人/日	110,000	H24~27	102,000	H29~R2	確定	102,532		あり	×
							見込み			なし	
指標3	金澤町家の再生活用件数	件/年	平均8	H24~27	平均12	H29~R2	確定	13	○	あり	
							見込み			なし	
指標4	外国人入り込み客数	人/年	256,000	H27	256,000	R2	確定	613,000	○	あり	
							見込み			なし	
指標5							確定			あり	
							見込み			なし	
その他の数値指標1	なし						確定				
							見込み				
その他の数値指標2							確定				
							見込み				
その他の数値指標3							確定				
							見込み				

フォローアップ計画		
予定時期	計測方法	その他特記事項
令和3年4月	令和2年の数値を含めH29~R2の数値の平均を確定値とする。	
令和3年4月	令和2年の数値を含めH29~R2の数値の平均を確定値とする。	
令和3年4月	令和2年の数値を含めH29~R2の数値の平均を確定値とする。	
令和3年4月	令和2年の数値を集計し、確定値とする。	

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	賑わいと交流を図る指標として「外国人入り込み客数」を設定したが、市民にもわかりやすく、公表もされていることから、迅速にとりまとめることができた。	主要商業地の歩行者通行量は天候にも左右されるため、雨天などの特異日は除く方策を検討する必要がある。
	うまく いかなかった点	主要商業地の歩行者通行量について、H30の調査時に台風の影響により調査日を変更した結果、大きく減少した。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	夜間景観の創出事業は、市民の利便性の向上を主目的とした施策であるが、結果的に多くの観光客を呼び込むことができた。	事業との関連性がわかりやすい指標を設定する必要がある。
	うまく いかなかった点	金沢駅西歩行環境整備事業の工期が遅れたため、数値に反映することができなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	都市機能向上事業において、商店街を中心に住民主体のまちづくり計画を策定し、まちなかに賑わいを創出することができた。	
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	中間年次である平成27年度にモニタリングを実施した結果、計画に位置づけられた事業が順調に進められることを確認することができた。	計画期間中のモニタリングの実施は、事業の進捗状況を確認できるため有効である。
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6 - 参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後、都市再生整備計画の活用予定地区  
 金沢中央地区(第4期)  
 ・今後事後評価を予定している地区  
 金沢城東地区(R5)  
 金沢南部地区(R5)

## (5) 事後評価原案の公表

### 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページへ記載	令和3年4月～		担当課へのFAX、電子メール	都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見					
-------	--	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	金沢学院大学馬場先教授、金沢工業大学川村教授(欠席)、 金沢大学丸谷助教	令和3年2月18日	都市計画課	金沢市社会資本総合整備計画評価委員会設置要綱	
その他の委員	金沢経済同友会松原理事、金沢市町会連合会中川会長、 金沢市校下婦人会連絡協議会能木場会長(欠席)				

審議事項 1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	妥当である。 各指標の算出方法が一定期間の平均の場合と直近年の数値の場合がある。算出方法は一定である方がわかりやすいのではないかと。
	成果の評価	妥当である。 歩行者通行量の増減は天候により左右され、また近年調査時期に台風が来ていることも承知している。
	実施過程の評価	妥当である。 中心市街地都市機能向上事業の具現化にかかる社会実験では、5年間柿木畠商店街とワーキングを開催し、今後のまちづくりについて議論や勉強を重ねてきており、そのプロセスを今後につなげるのが重要である。
	効果発現要因の整理	妥当である。 金澤町家の再生件数は補助件数であり、自費のみで改装している場合もある。今後、コーディネート件数なども把握できればより良い指標となる。
	事後評価原案の公表の妥当性	妥当である。
	その他	特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	妥当である。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・まちなか定住のため、子育て世帯や子どもの居場所、遊び場づくりが必要となる。 ・まちなかは歩道が狭いため、積雪時に住民・観光客ともに歩きにくく、安全性も低下することから、歩道のロードヒーティング化等も検討してはどうか。 ・wifi環境の向上が望まれる。箇所によっては繋がりにくい場合がある。
	フォローアップ	妥当である。 令和2年度の数値は新型コロナウイルスの影響により特異な状況になっている可能性もあり、傾向を把握し、次年度以降の事業に活かしてほしい。
	その他	・新型コロナウイルスの影響で社会が大きく変容した。まちづくりの考え方も新しい社会に対応したものにしていく必要がある。 ・観光客よりも地元住民の暮らしやすさが重要であり、意識したまちづくりをしてほしい。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	妥当である。
その他		

### (7) 有識者からの意見聴取

#### 添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
なし		

有識者の意見	
--------	--